

GRANDCUBE

Osaka International Convention Center

PRESS

Vol.31 2020 Autumn

20th
ANNIVERSARY
おかげさまで20周年

CEO Message

株式会社大阪国際会議場 代表取締役社長 福島 伸一

「これからの時代に即した、
新たなグランキューブ大阪へ是非お越しく下さい」

RENEWAL INTRODUCTION

CSR Report

新型コロナウイルス感染拡大防止に向けた取り組み

中之島ビジネスフロントライン

公益財団法人 大阪観光局

リニューアルにより白色LEDの
英文名称が明るく輝くエントランス

CEO Message

いつも大阪府立国際会議場(グランキューブ大阪)をご利用いただきありがとうございます。

新型コロナウイルス感染症拡大に伴う国の緊急事態宣言、並びに大阪府からの要請を受け、当館も4月8日より臨時休館を余儀なくされておりましたが、6月20日より営業を再開し、再びお客様にご利用いただけるようになりました。

ご利用にあたっては、お客様とスタッフの健康を最優先し、皆さまに安心してご利用いただけるよう、

新型コロナウイルス感染症の感染防止と予防に努めると共に、リアルとバーチャルを組み合わせたハイブリッド型会議・イベント等のサポートプランなど、Withコロナ時代に即したサービスの提供を行ってまいります。

さて、本年は当館開業20周年を迎える記念すべき年でもあります。

開業20周年を記念し、館内を大幅リニューアルいたしました。

黒川紀章氏による設計思想を活かしながら、20年の時を経て、新たな魅力が加わったグランキューブ大阪へ是非お越しく下さい。



株式会社大阪国際会議場 代表取締役社長

福島 伸一 Shinichi Fukushima



地下1階 エントランスホール/ ラウンジB1

エントランス正面には『松葉』をあしらったデザイン。(館内各所の床面には、黒川紀章氏デザインの『松葉』が散りばめられています。)間接照明で柔らかな印象と落ち着いた空間を演出。自動販売機(飲料、食品)、コインロッカー、両替機を備え、利便性を向上。軽食やパソコン作業など多種多様なシチュエーションに対応可能な空間になりました。





1階 エントランスホール

【当日の催事情報を提供するサイネージ】LEDパネルの採用により、空間の圧迫感を軽減した明るく開放的なエントランス空間。縦格子を採用することにより、お客様のエスカレーターへの視線の抜けを妨げないデザインです。

【受付】平面壁は『松葉』をイメージしたデザイン。
 【サイネージ横のタッチパネルサイネージ】周辺情報（レストラン、観光地、タクシーの配車連絡先）をお客様自身が検索可能になりました。

RENEWAL INTRODUCTION

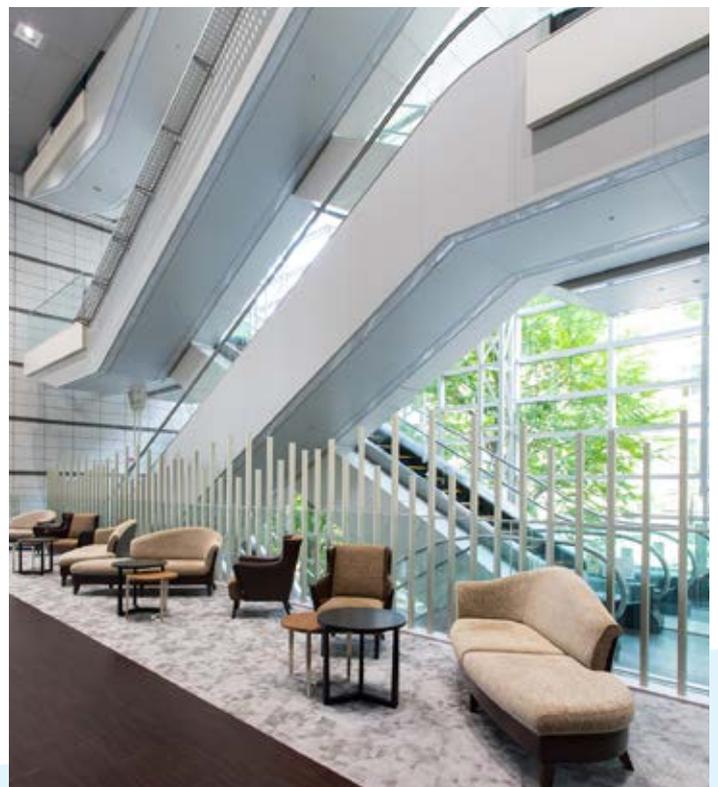
本年開業20周年を迎えました大阪府立国際会議場（グランキューブ大阪）では、ご来場・ご利用頂く皆様により快適で心地よいひと時をお過ごし頂けますように、この度、1階『エントランスホール』、2階『ラウンジ』、地下1階『エントランスホール』、『ラウンジB1』のリニューアルを行いました。

1階『エントランスホール』には、美しく鮮明なLEDパネルにより当日の催事情報を提供するサイネージを設置した他、周辺のレストランや観光地等の情報を検索できるタッチパネルサイネージも完備しました。

また2階『ラウンジ』には、建築家・黒川紀章氏による当館の設計コンセプト「共生の思想」に基づき、“水”の流れを意識した有機的な曲線を描く縦格子を背景に、ゆったりと寛げるソファとテーブルを配置。木漏れ日を感じられる、上質で開放的な空間に生まれ変わりました。

さらに、地下1階『ラウンジB1』は、間接照明により柔らかな印象と落ち着いた空間を演出。自動販売機、コインロッカー、両替機も備え、軽食やパソコン作業など様々なシチュエーションに対応できる空間としました。

より美しく快適に、より便利に生まれ変わった大阪府立国際会議場（グランキューブ大阪）への皆様のご来場とご利用を、スタッフ一同心よりお待ちしております。



2階 ラウンジ

木洩れ日を感じられる、上質でゆったりと開放的な空間。縦格子は、“水”の流れを意識した有機的な曲線を描いています。（黒川紀章氏の「共生の思想」という設計コンセプトの下、会議場でも直線と曲線が共生しています。）



新型コロナウイルス感染拡大防止に向けた取り組み

大阪府立国際会議場は、新型コロナウイルス感染拡大防止に伴う政府による緊急事態宣言及び大阪府の方針により臨時休館をしておりましたが、緊急事態宣言の解除に伴い6月20日(土)より営業を再開致しました。再開に当たっては、新型コロナウイルス感染拡大防止に向けた取り組みとして、ご利用者の皆様、及び当施設従業員の安全、安心のために万全の対応を心掛けております。以下は、その取り組みの一部です。

ご来場・ご利用頂きます皆様にも、本取り組みへのご理解とご協力を何卒よろしくお願い申し上げます。

1 当施設従業員の安全・健康管理

- 従業員の体調管理
- 咳エチケットの徹底
- 出勤時の検温の徹底



2 身体的距離の確保に配慮したレイアウト

- 1階ロビーの椅子・ソファの使用制限
- 会場入口 待機列の目印
- 会場内レイアウトのご提案
- エスカレーター使用時の感染対策のアナウンス
- エレベーター内の同時乗り入れ人数制限の実施
- カフェ・レストランのテーブルレイアウト及び飛沫感染防止のためのシート設置



当施設のご使用時には、身体的距離の確保に配慮した机・椅子のレイアウトのご提案をさせていただいております。

3 3密となる場所の使用停止

- 1階屋外喫煙所
- 11階礼拝室

4 抗菌・消毒・飛沫感染防止対策

- お貸出備品の消毒の実施
- エレベーターボタンの抗菌シート貼付
- 飛沫感染防止のためのアクリル板の設置
- アルコール消毒液等の共用部への設置
- 定期的な空気の入替え



5 「大阪コロナ追跡システム」のご案内

「大阪コロナ追跡システム」では、施設の利用やイベント参加の際、QRコードを活用して利用者がメールアドレスを大阪府に登録。同じ日に登録された方が、後日、新型コロナウイルスへの感染が判明した場合、施設の規模等に応じて、大阪府から施設等利用者へメールで注意喚起のお知らせをします。

また、クラスター発生(発生のおそれを含む)の際には、クラスターが発生したと考えられる日の当該施設の利用者に連絡を行います。



出典：大阪府「コロナ追跡システム」HP
詳しくは当施設HPをご覧ください。営業担当者へお問合せください。

EVENT INFORMATION

グランキューブ大阪で開催されたイベントをご紹介します。

イベントカレンダー
<https://www.gco.co.jp/event/>



※新型コロナウイルス(COVID-19)の影響により、開催中止、または延期となる場合があります。最新の情報は、主催者様へお問合せください。

FINISHED [会期終了]

2020. 8/10 アフリカ子どもサミット2020

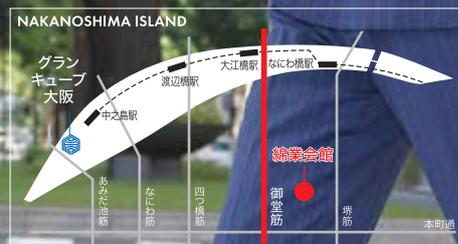
アフリカと日本の子ども達がインターネットを通じて繋がるイベントが開催。新型コロナの影響もあり無観客YouTube LIVE配信での実施でした。会場に集まった子ども達だけでなく、大阪府下アフリカの姉妹都市である泉佐野市(ウガンダ)和泉市(セネガル)とSDGsを重視したカリキュラムを採用している追手門学院小学校3カ所のKIDSも中継リモート参加。一部は「アフリカをもっと知ろう!」と題したクイズ。二部は「現在のアフリカコロナ事情」外務省から「アフリカの子どもレポート」と「大阪万博2025」開催概要の説明を交えながら、いよいよアフリカ3カ国(コンゴ民主共和国、ウガンダ共和国、ガーナ共和国)の子ども達が、ネットで現地から登場です!フィナーレは、今回のイベント・メッセージ曲「手を洗おう」を全員で踊りました。

(主催: Africa 4.0 Foundation 共催: 株式会社大阪国際会議場 / AFEC / AFRICA meets KANSAI)



ガイドラインでMICE開催をバックアップ Withコロナ時代、 観光で大阪に活気を取り戻す！ —公益財団法人 大阪観光局—

中之島の著名企業・施設を大阪国際会議場社員が訪問し、その歴史や活動を紹介する「NAKANOSHIMA BUSINESS FRONTLINE」。第6回は特別企画として、公益財団法人大阪観光局様を訪問。MICE再開に向けて尽力されている田中嘉一MICE政策統括官に、営業部長の芳賀貴臣がお話をお伺いしました。



幅43.6メートルを誇る、大阪市の南北の大動脈「御堂筋」。ブランドショップや一流ホテルが立ち並び、11月3日から年内いっぱいイルミネーションの舞台となる。「この素晴らしいグランアベニューを世界中の人に紹介したい」と、大きく両手を広げて歓迎する田中統括官。

大阪に人・物・情報を 集めるために

芳賀 本日は お忙しい中、お時間をいただきありがとうございます。改めて、貴局の役割をお教いただけますか？

田中 観光局は観光情報を発信しているだけと理解されがちですが、当局は個人旅行とビジネス旅行の両面から、大阪に人・物・

情報を集めるビジネスプラットフォームの役割を担っています。個人旅行では大阪の見所はもちろん、新たに発掘した観光資源をストーリー立てて発信しています。ビジネス旅行ではMICEを大阪に呼ぶための戦略立案から誘致活動、MICE参加者に大阪の滞在を楽しんでもらうためのアフターMICEのコンテンツ開発までを一貫して行っています。

芳賀 大阪に人を呼び寄せるために、最も重要なことは何でしょうか？

田中 多くの人に「大阪に是非行ってみたい」と感じていただけるような、大阪にしかない「オンリーワンの価値」を分かりやすく発信することだと思います。私ももっと踏み込んで考えていて、大阪観光局は、魅力的な大阪になるための都市戦略を考え、大阪府・大阪市など行政に政策として提案するような貢献をすべきだと考えています。なぜなら、我々は観光政策のプロ集団であり、シンクタンクのような存在だからです。これまで日本でこのような

NAKANOSHIMA BUSINESS FRONTLINE

取り組みを行ったビューローはありませんが、国際観光都市への高い意欲とポテンシャルを持っている大阪では実現できると思っています。とても楽しみです。

行政を巻き込んで

芳賀 コロナ禍でMICEが停滞する中、貴局は「感染症拡大のリスクを抑え、MICEを開催するための主催者向けガイドライン」を公表されました。その経緯をお教えいただけますか？

田中 MICEは経済発展、地域活性のエンジンであり、決して不要不急なものではなく、人々の生活を支えるためにも、できるだけ早く再始動させなくてはならないと考えました。そのためには、「開催は難しい」という発想を「どうすれば開催できるか」へ転換する必要があります。また、主催者にとって、開催に対する世論の風当たりが大きな壁になるので、こういう危機的な状況だからこそ、我々のような公的な組織がリスクをとり、「是非開催してください」というような「お墨付き」を主催者に与えてあげることが重要だと考えました。そこで今年4月、現職に着任するとすぐに本

ガイドラインの作成を始め、感染症の専門家の監修、大阪府、大阪市との折衝や大阪府吉村知事、大阪市松井市長への説明も行き、6/3にガイドラインを発表するに至りました。

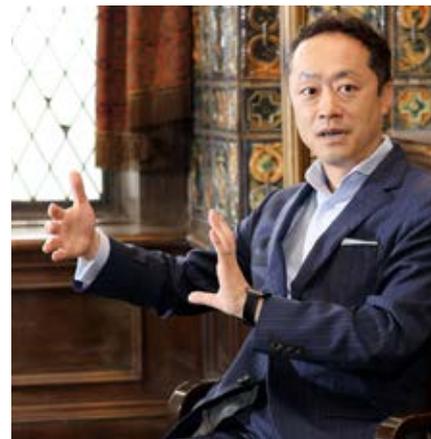
芳賀 本ガイドラインは、主催者に寄り添って作成されているという点が、大きな特徴になっていますね。

田中 MICEは主催者によって企画・運営計画がつくられるので、その方が理にかなっているんですよ。23年間、見本市の主催に関わり、SARSや東日本大震災を経験した立場から申しますと、一般的に主催者は災害などへのリスクマネジメントは得意です。したがって、ガイドラインの作成に当たっては、細部まで規定せず、「三密回避」の考え方に沿った大枠だけを示し、主催者が、多種多様な現場で勤を働かせ、工夫し、臨機応変に対応できるように構成と表現にこだわりました。つまり、「どちらかというやっただ方がいいこと」「効果が不明なこと」「ここまで徹底しますよ」というアピールが目的のこと」は全てカットしました。

芳賀 「細かく規定してくれないと迷う」という声はなかったのですか？

田中 むしろ「分かりやすい」と好評でした。MICE主催者の意見、他業界の事例、海外の

MICE再開の動き等を参照し、さらに専門家の意見もいただき、現実的で国内環境に合うよう検討を重ねたからだと思います。本ガイドラインではMICEの重要性を明確にし、「指針を守って開催してください」としているので、主催者は勇気づけられたようです。実際、展示会の開催が続々と決定していますよ。



公益財団法人大阪観光局 田中嘉一 MICE政策統括官

“リアルMICE”の価値を高める

芳賀 新型コロナウイルス感染症拡大の影響でMICEのオンライン化が進んでいます。このままオンラインに移行するとお考えですか？

田中 いいえ、思いません。というのも1995



対談は、数々の日本外交の舞台となった重要文化財(一社)日本綿業倶楽部「綿業会館」3階の「談話室」で行われた。壁面のタイルタペストリーは、京都東山の旧泰山製陶所で焼かれた「泰山タイル」を使用。MICE会場としても一般に貸し出している。詳細は同会館HP (<http://mengyo-club.jp/>) 参照



株式会社大阪国際会議場 営業部長 芳賀貴臣

年、インターネットが勃興し始めた頃、今と全く同じように、「MICEはオンライン化するのは」という議論がありました。しかし実際は、インターネットによって世界中にMICEの開催情報が知れ渡るようになり、海外からの出展や来場者は増え、MICEは爆発的に発展しました。オンラインの技術は、リアルの価値を高め、世界にMICE開催を知らしめるための「ツール」だと捉えています。

芳賀 オンラインで済む会議もあるとお考えのお客様もおられますが…。

田中 MICEの「C」は、本質的な存在価値が情報発信・情報収集であるため、特にオンラインへの動きが強い傾向があるのはご指摘の通りです。しかし、感染症の問題が落ち着けば、Face to faceでの会議で得られる

効果が圧倒的であることに、多くの人が気づき始め、MICEは再び成長軌道に乗るだろうと、過去の経験から私は確信しております。ましてや、大阪観光局の使命は、大阪に実際に多くの人に来てもらい、大阪に経済効果をもたらすことです。我々はオンライン化を後押しするよりも、今こそリアルの体験を充実させるための研究をすべきだと考えています。

芳賀 私たちは、大阪を日本一のMICE都市にしたいと思っています。今後は、何に力を入れていけばいいでしょうか？

田中 MICEはそもそも時間とコストをかけて参加するものでしたが、これからは感染症のリスクというコストも加わったわけですが、それでも参加したいと思わせるような魅力あるものにしていかなければなりません。そのために、やるべきことは2つあります。ひとつは、主催者がMICEの中身を充実させること。例えば、展示会で確実に商談できる、会議でキーパーソンに

出会えるなど、マッチメイキングの仕組みなどはどんどん開発していかなければなりません。もうひとつは、我々のような開催地の人々が、会期中の食事やアフターコンベンションなどのアクティビティを充実させることです。「大阪に来てよかった」と喜ばれるような体験と感動を提供できれば、翌年もまた大阪を訪れてくれるようになると思います。

芳賀 「リアルなMICEの誘致」という目的は私たちも同じです。貴局と一緒に大阪のMICEを盛り上げたいと思っていますので、今後ともよろしくお願い致します。



シャンデリアが来館者を迎える、本館1階「玄関ホール」。壮麗なイタリアルネッサンス様式。

昭和7年開館当時の大阪綿業会館外観
画像提供：一般社団法人日本綿業倶楽部

綿業会館は、昭和一年に逝去した東洋紡役員の間常夫の遺志を受けて、寄付金に拠って建設された。繊維関連の企業役員などからなる日本綿業倶楽部の社交場である。設計は大阪を代表する建築家渡辺節。主任製図工として村野藤吾が参画した。施工は清水組が請け負った。建物は昭和六年十二月に竣工、現在は倶楽部建築の名作として、重要文化財に指定されている。三休橋筋に面して落ち着いた外観に対して、内部の意匠は実に華やかである。各部屋は、あえてデザインの様式を連えている。連続アーチが印象的なルネッサンス様式の1階ホールには、堂々たる大シャンデリアを吊るす。米国流のミューラル・デコレーションを天井に施す会員食堂は、明朗な雰囲気の特徴で

ある。貴賓室はクイーンアン様式、「鏡の間」の異名をとる会議室はナポレオン帝政下のアンピール様式。大会場は18世紀英国のアダム様式といった具合だ。

最大の見所は、英国ジャコビアン様式の談話室だろう。暖炉脇の壁面装飾が見所だ。渋味の強いもの、鮮やかなものなど、池田泰山が焼き上げた発色の異なる1000枚のタイルを組み合わせて、巨大な一幅の美術作品に仕上げられている。この美しい壁面を、つづれ織りに例えて「タイルタペストリー」と呼ぶのも、繊維関係者の倶楽部らしい雅趣である。設計者である渡辺は、のちに「外観はあまり立派でなくても、内容は数十年の後も恥ずかしくないもの」にしたと述懐している。

綿業会館には、戦前にあつては、リットン卿が率いた国際連盟日支紛争調査委員会を始め、さまざまな要人が訪問している。また綿業に関する諸外国との通商問題に係る議論など、多種多様な会議がここので行われた。会員の利用を前提とした会館建築だが、大阪における国際的な会議施設、今日というMICE施設の役割も担っていたわけだ。

中之島 トリビア

会館建築と
国際会議

NAKANOSHIMA TRIVIA

第6回
[スピンオフ編]

橋爪紳也 Shinya Hashizume

大阪府立大学研究推進機構特別教授
大阪府立大学観光産業戦略研究所長

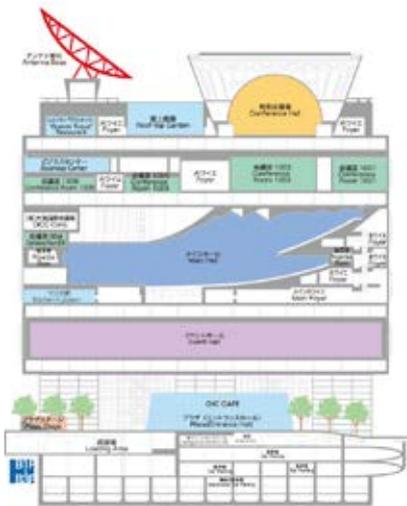
FOCUS ON GRANDCUBE

本年開業20周年を迎えた大阪府立国際会議場(グランキューブ大阪)は、「日本一のMICE都市」を目指す大阪のビジネスと文化の中心地・中之島にあって、これまでに、国内外から大勢の来場者が集う大規模な国際会議、学術会議、カンファレンス、展示会、イベントなどの会場として用いられてきました。今号と次号の2回に分けて掲載する本記事「FOCUS ON GRANDCUBE」では、建築界の天才と謳われた故・黒川紀章氏の傑作であるグランキューブ大阪の設計・設備上の4つの側面に焦点を当て、国際会議場、また公共施設としてのその優れた機能性とユーザビリティをご紹介します。

FOCUS

1 All-in-One

オールインワン



グランキューブ大阪は、地下3階から13階までのエレベーションに、駐車場、メインエントランス、最大2,600㎡のイベントホール、最大2,754席の聴衆席と幅20mのステージを備えたメインホール、最少42㎡から最大1,010㎡までの大小様々な会議室、そして国際会議仕様の特別会議場など、国内外のあらゆる会議やイベント、展示会、コンサート、VIP級の国際会議まで、カンファレンス・会議・イベントのニーズのすべてに対応するオールインワン設計です。

一般に、国際会議や大規模展示会に対応可能な大規模施設の場合、広大な敷地に会場が分散していることも多く、そのため、エントランスから会場へ、会議室から展示会場へなど、平面の移動に多くの時間や労力を要することが少なくありません。

この点、一つの建物の中にあゆる種類また規模の会議やイベントに対応可能な大小の会場を完備したグランキューブ大阪では、各フロアや会場への移動は11基のエレベータ及びエスカレーターを使用してスムーズに行えます。

また、2,600㎡の広さを有するイベントホールは、パーティションにより、最大3会場に分けて使用することができるため、例えば、メイン会場、展示会場、物販会場、商談ルーム、控室など、会場を様々な用途に分けてイベントを行うことも可能です。

FOCUS

2 Fine Location

ファインロケーション

大阪のビジネスの中核であり、かつ文化・芸術の中心でもある中之島。グランキューブ大阪は、都市型MICE施設として、この抜群のロケーションとアクセスを有するエリアに位置しています。

大阪市の都心の中央を流れる堂島川と土佐堀川に挟まれた東西約3km、面積約50haの細長い中洲である中之島は、古くから大阪の行政、経済の中心地として栄え、かつ美しい緑と水辺環境に恵まれた都心のオアシスとして、大阪市中央公会堂など、多数の公共また民間の文化・芸術施設が集中。来訪者に充実した豊かなひとときを提供しています。

さらに、MICEには欠かせない宿泊・飲食施設も充実。グランキューブ大阪に隣接するリーガロイヤルホテルを始め、多数の国際級ホテル、レストラン、カフェなどに恵まれています。

また、グランキューブ大阪は京阪電鉄中之島駅すぐであり、アクセス面も抜群。天満橋駅で京阪本線と結び、京都にまで直接足を伸ばしたり、大阪メトロやJR、阪急、近鉄などへの乗り換えにより、大阪市内各所、神戸、奈良も日帰り圏内。車の場合は、最寄りの阪神高速中之島西出口からすぐの位置にあります。

「オールインワン」&「ファインロケーション」のグランキューブ大阪。その機能性、ユーザビリティの高さ、また都心立地でアクセス良好なMICE拠点としての魅力は、過去20年間に行われた様々な国際会議、カンファレンス、展示会、イベントなど数多くの開催実績が物語っていると云えます。



画像提供:水都大阪コンソーシアム



《電車》

- 京阪中之島線「中之島(大阪国際会議場)駅」(2番出口)すぐ
- JR大阪環状線「福島駅」から徒歩約10分
- JR東西線「新福島駅」(2・3番出口)から徒歩約10分
- 阪神本線「福島駅」(3番出口)から徒歩約10分
- 大阪メトロ「阿波座駅」(中央線1号出口・千日前線9号出口)から徒歩約15分

《バス》

- JR「大阪駅」駅前バスターミナルから、大阪シティバス(53系統 船津橋行)または(55系統 鶴町四丁目行)で約15分、「堂島大橋」バス停下車すぐ
- シャトルバスが、「リーガロイヤルホテル」とJR「大阪駅」桜橋口の間で運行しており、ご利用いただけます(定員28名)
- 中之島ループバス「ふらら」で地下鉄・京阪「淀屋橋駅」(4番出口・住友ビル前)から約15分

株式会社 大阪国際会議場

OSAKA INTERNATIONAL CONVENTION CENTER CORP.
〒530-0005 大阪市北区中之島5丁目3番51号
Tel.06(4803)5555(代表) Fax.06(4803)5620



GRANDCUBE PRESSは、地球にやさしい広報誌。この印刷物は環境に配慮した植物油インクを使用しています。